

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

J A 四万十生姜部会は場共進会（10月14日）



ショウガの栽培技術の向上と生産振興のため、J A 四万十管内11ヵ所のは場で共進会が行われました。

各は場において生育状況や病虫害発生状況、栽培管理等を評価・審査した結果、最優秀賞、優秀1～3席が選考されました。選考されたは場の評価は高く、「さすがやねえ」、「かなりの収量があるろう」等の感嘆の声も聞かれ、良い刺激を受けたようです。

今後とも関係機関・組織と連携し、栽培技術向上のための支援を行い、ショウガの生産振興につなげていきます。

ヒートポンプ暖房機勉強会（10月29日）



キュウリ、ユリ、ミョウガなどで導入されているヒートポンプ暖房機の効果的な運転について、県農業担い手センターの職員を講師に勉強会を開催し、導入農家やJA職員など14人が参加しました。

ハウス内の温度実態に基づく設定や温度ムラの解消方法など実践的な内容で、農家からは「導入により収量は増加したが、暖房費のコスト低減に向けて更に取り組まなければ」などの意見がだされ、活発な勉強会となりました。

今後は、ヒートポンプ暖房機やCO2施用などの新技術の普及・定着に向けて、品目の垣根を越えた研究会の設立とその活動を支援していきます。

藤ノ川ファーマーズ説明会（10月20日）



集落営農組織の藤ノ川ファーマーズで、農地中間管理事業についての説明及び法人設立後の営農体制等の説明を行いました。

その結果、地域集積協力金の活用や、法人設立について合意が図られました。

今後も、来年1月の法人設立に向けた活動を支援していきます。

「大井川の水田農業を考える会」の集落営農先進地調査（10月26日）



香川県の集落営農組織を12名（関係機関含む）で調査しました。

「山南営農組合」は、女性や高齢者も参加する全員参加型の集落営農組織（50戸）でライスセンター部会を中心に産地直売部会・農村レストラン部会など8部会からなる任意組織でした。

「あぐり四歩市」は、一集落一農場方式で水稻と裏作小麦を栽培する農事組合法人（6戸）でした。

参加した農家は、中山間地域等直接支払制度を活用した組織運営等を学び、大井川地区の将来について意見を交わしていました。

今後も、集落営農組織設立に向けた活動を支援していきます。